

東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2020

「考えて生きる ～大学は知の宝庫～」

第6回 12/2 (水) 13:30～15:00 報告

検査値の「H」「L」を考える ～大学は知の宝庫～

講師 多和田嘉明 (本学講師)

於：図書館大セミナー室

◆◆◆◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*

令和2年度第6回公開講座(受講者38名)が12月2日に開催されました。本学健康福祉学部管理栄養学科講師の多和田嘉明先生による「検査値の「H」「L」を考える ～大学は知の宝庫～」というテーマの講演でした。多和田先生は2年前まで臨床検査技師として病院で40年ほど勤務されていたご経歴がおありだそうです。講演の内容が詳細かつ多岐にわたりましたが、健康意識の高い受講者の皆様が熱心に聞いていらっしゃいました。

講演内容で特に印象に残った点をまとめさせていただきました。

お話の内容でまず驚いたことは、検査の基準値が施設ごとに違うということでした。また検査結果の「H・L」自体をあまり気にする必要がないこと、それよりもむしろ自分で検査結果のデータを管理するのが重要であり、個人の検査値が基準値内にあっても一定方向に変動が始まったらその時点でかかりつけ医に相談する必要があること、さらに検査結果の検体コメントは必ずチェックすべき重要項目であり、現場の検査技師の説明を聞いて確認したほうが良いなど大変役に立つ情報を教えていただきました。

また健診検査は項目数が多くなればなるほど「H・L」は多く出るという率直なご指摘や、治療の指標にはなるが一部のがんを除いてがんを発見する目的での腫瘍マーカー検査も意味がないなど長年の現場経験に基づく専門家の生の声が聞けたことは大変興味深く有意義でした。

最後に現状コロナ禍で疲弊が増す医療現場で働く医療従事者の方々のご苦労など医療現場の危機・過酷さ等にも触れられました。また、国民皆保険によって誰もが医療を受けられる日本の医療格差のない素晴らしい制度が、この先も何とか続いてほしいという先生の切なるお言葉に心より賛同し講演は終わりました。

【講座の様子】

